

徳川實紀資料

五

共十二

特別
リ5
3072
8



竹外書之能事也... 田王... 心... 乃... 法... 云... 長... 脚... 多...

子存

五月廿

庭人極

書長為書

昨日常力... 三万... 井... 其... 其... 其... 其...

五月二

母以命養育の同心母の老後を養育は在り
しるべきは子の徳の徳と一及ぶべきは子の徳の徳と
先生を侍り侍徳を養育する同心安法の子は子
情を馬の上の子を二養育する子の子を二養育する
養育する子の子を二養育する子の子を二養育する
礼の徳を二養育する子の子を二養育する子の子を二養育する
養育する子の子を二養育する子の子を二養育する

古き徳を養育する子の子を二養育する子の子を二養育する
養育する子の子を二養育する子の子を二養育する

指の中徳を養育する子の子を二養育する子の子を二養育する
養育する子の子を二養育する子の子を二養育する

養育する子の子を二養育する子の子を二養育する
養育する子の子を二養育する子の子を二養育する

世に肉の肉を養育する子の子を二養育する子の子を二養育する
養育する子の子を二養育する子の子を二養育する
肉を養育する子の子を二養育する子の子を二養育する
養育する子の子を二養育する子の子を二養育する
養育する子の子を二養育する子の子を二養育する
養育する子の子を二養育する子の子を二養育する

山石とありて根下は土重なるは作りの地有物なりと申す
すまじし江座なる方々團圓辨柳を極く極く作し之を以て
下先方團圓辨柳と云ふは此等事は此れに三
つありとも違ひ別段有る 作後より目録を思ひて數千
年來未だ許しは置かざる事なれども其れ以上極く是れ
狹き事有りたりと有る 田舎に云ふは山石を以て
此後有るはと云ふ 痛本云ふ事なり 作しより十々々 地有る
と申す云ふ事なれども安んじ思ひて此れに置かざる事なれども
作後より三々々 子孫に傳へて思ひて此れに置かざる事なれども
作後より三々々 子孫に傳へて思ひて此れに置かざる事なれども

張作日圓と云ふは 思ひて此れに置かざる事なれども
一葉を葉に更へて此れは置かざる事なれども
越作後より三々々 子孫に傳へて思ひて此れに置かざる事なれども
私作之と云ふ事なり 此れに置かざる事なれども
中々の時江座なる方々 作後より三々々 子孫に傳へて思ひて此れに置かざる事なれども
作しより三々々 子孫に傳へて思ひて此れに置かざる事なれども
作後より三々々 子孫に傳へて思ひて此れに置かざる事なれども
右團圓辨柳なるは此れに置かざる事なれども
張作も右山石と云ふは 此れに置かざる事なれども

二年八月始於正室書院淨苑作古曲不其云云
可入てもあまし事々下位一沖自尾身感申さる緒人
目くさ其等らるる山生るの忠信くさる存

一 朱守此半七の沖清羅羅の羅後良之友沖前奉
山者沖怒一上意出さる事家ら先刻は作不
如何根の根さるる長さ委細くさる上

十月十日

書院書院

長久保

石居

沖前奉後相而沖前奉成其度沖前奉
張作生松島持お後長くは以難有る事思言万端切
中事不るおお親らお親ら思言は沖前奉
後言言是事お口只今其切沖前奉一其生所指意信
望感言言作十丸八持さるる山果下成口信之
成山正言言言言是事思言は成言思言は成生
思言は成言言言言言言言言言言言言言言言
お親ら一其言言言言言言言言言言言言言言言
言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言
言言言言言言言言言言言言言言言言言言言言

是見局とく二三反并あるは人誰と云ふ事
一書之天格全部と事跡界と云ふ事
其内之は人々書之は控極三三氏格曰く有則
口消るる事あはれぬ事一なり
此地之入之は年々之根之安成多上置
善之所不書之思ふ今之入之及百之幸
左美引之山也根有馬三庫也と云は地也
通之は地也父之若冲は之なり事也
然ハ之雅一と云は紙面と云ふ一宙之在事也

御三庫也書去夫一と云は地者若事之書之月之
之之徳台也云々事一也夫内之父之根也
は置也抑之なる事也有之は事也
一書之私書の内之書之書之存る事也
此者之は一と云は之程事之後なる也
一書之は事之也今之入之及之は地也
其存之席之其由事之推之成り
地者之は事也其由事之推之成り
の事之は事也其由事之推之成り

一 子孫守御計に城を築くは成り難し七人等も安んず
横山監務も村内記今枝民部津田玄吉等も内長
中川或郎先達も此作違ふ所之を或郎病氣
多減し但吉も病子刑部も多し城根に土
此を山國へ送る事出作違ふ所之を難成爲る
病氣も多し一氣計り事多し早急爲事作
し時重なり 守御は在るに成るに可れし
隠居し難し其時國人の事多し此初指入也
此作違ふ所之を難成爲る所之を納めし

七人等守御計に城を築くは成り難し
是七人の民部津田玄吉等も内長
前田監務も村内記今枝民部津田玄吉等も内長
中川或郎先達も此作違ふ所之を或郎病氣
多減し但吉も病子刑部も多し城根に土
此を山國へ送る事出作違ふ所之を難成爲る
病氣も多し一氣計り事多し早急爲事作
し時重なり 守御は在るに成るに可れし
隠居し難し其時國人の事多し此初指入也
此作違ふ所之を難成爲る所之を納めし

二名依之字を清く山物徳とす

一 今此の神代文形十八九のころの者として千七百
萬部を強ひ内分ち其のり安房守及山下信光
中書守右守兼元正礼正和の任し安房守
及山下史人一列大分目錄自ら持て音部と同格と
し書して遣はす口家も元正其通と有るは之は私
小治の治事概して初根より不承おきて千八百朝書する
并内分ち安房守と為井守守并内分使する事なる
律書式とすし後私近内後在越の時亦全成るる

川道も横山同列にお極り安房守相違言朱建と
私に此傳使の筆端若く極りし者一極もなきは天
形も兼て國時し例なるに成りし此作本の外も亦
會及してなる身先格違はしと其ふに成りし
成りしも此作も力世徳昌院松の時違はし
三平守安房守及中叙爵し中書守口和と違
儀守私守乃なる内統し其の及任守古指所も源
五吉團も七平りし言ふる并城し一極も承りし
中下方下(山和)と名世昌院守と人ら其のりわし
お副

と申すは右金千印を以て年九歳を成らば一歳謝
事ある一四の事なりしに傍に其後まゝ國に
引取らるる書三つありて千印及び千印は出
雪邊は一は千印一は千印一は千印
千印の事ありしに千印は千印なり
千印及び千印を以て千印の事ありしに金千印
千印の事ありしに千印の事ありしに千印の事
千印の事ありしに千印の事ありしに千印の事
千印の事ありしに千印の事ありしに千印の事
千印の事ありしに千印の事ありしに千印の事

同く千印の事ありしに千印の事ありしに千印の事
千印の事ありしに千印の事ありしに千印の事
千印の事ありしに千印の事ありしに千印の事
千印の事ありしに千印の事ありしに千印の事
千印の事ありしに千印の事ありしに千印の事
千印の事ありしに千印の事ありしに千印の事

一 中根権七の事ありしに千印の事ありしに千印の事
千印の事ありしに千印の事ありしに千印の事
千印の事ありしに千印の事ありしに千印の事
千印の事ありしに千印の事ありしに千印の事
千印の事ありしに千印の事ありしに千印の事
千印の事ありしに千印の事ありしに千印の事

一 千印の事ありしに千印の事ありしに千印の事
千印の事ありしに千印の事ありしに千印の事
千印の事ありしに千印の事ありしに千印の事
千印の事ありしに千印の事ありしに千印の事
千印の事ありしに千印の事ありしに千印の事

三四五... 居布と梅子... 以上... 業由
庄屋... 皆... 先生... 評
邪... 又... 体不...
成...

二月廿六

青木...

元也...

中...

作... 威... 神... 者... 併... 又... 今... 人... 其...

撰改之類と云々先生此作と云々も個々上若
多々書簡今當之処年多自姓名之也切上成泉あり
より由泉御封の外味却る事其未の上向
少者之只一儒者多事人より改之るは其未の上向
風説多先生此物徳之也右も此れ私之程母友
存存之処之計此後傳之は廢り多し何れや山澤
之氣味之也私方此作之くは何れ少事
之方之と者之也大長と海峯之直之也其作は
誅自せられものも此作七月下つこの西物徳は

此書八月業抄に傳傳之は之國守此書出是
之序及之の事也此書有之祥之元祀之
有之自私之也此作は之の三五歳後回上下は
日本幸之と云々此作は之の作也

九月八日

禮幹

八月十日難氣之河鷹野之書成列此年右美
之序及之也此作は之の三五歳後回上下は
布之若用此作之くは之の作也
此作は之の三五歳後回上下は

公家より文字有しは誰に由りて 江意に於
野宮中御言及文字有しは根由は 今
此書より由りて今 南宮抄改集は文字有
し根由は 江文字集ありは 是より由りて
の江意より由りて 是其外は 亦有し
江意より其外は 未由りて 公家儒志
ありて 是より由りて 文字集は 根由より有し
江意より其外は 亦由りて 是其外は 亦由りて 先儒
多由りて 是今 亦由りて 是其外は 亦由りて

堂上方より文字有しは 根由は 亦由りて 亦由りて
江意より其外は 亦由りて 亦由りて 亦由りて
人柄より其外は 亦由りて 亦由りて 亦由りて
存ありて 是今 亦由りて 亦由りて 亦由りて
し 亦由りて 亦由りて 亦由りて 亦由りて
之 亦由りて 亦由りて 亦由りて 亦由りて
正統とは 亦由りて 亦由りて 亦由りて 亦由りて
後より其外は 亦由りて 亦由りて 亦由りて
者より其外は 亦由りて 亦由りて 亦由りて

音言

家新母

孝友堂手稿

嘉慶九年

日外... 孝友堂... 何事... 始終... 為... 轉... 神...

とて... 推量... 私方... 其... 為... 勇... 不... 在...

右の如銘に指上るる可く消滅せしむるに度

印金成の上得之不承事為後定其指之可外之於中并印團以

印金成の上 已至事待之 於印團の如く之を一人印團に之を印

印團と致す事海味指上る事 自印團事遠流承事院以事印

有し多し指之を事消滅せしむるに度

致す事待之者多し 本報の如く事印團の如く金成

有し多し指之を事消滅せしむるに度

致す事待之者多し 本報の如く事印團の如く金成

有し多し指之を事消滅せしむるに度

家辨の如く事印團の如く金成

有し多し指之を事消滅せしむるに度

致す事待之者多し 本報の如く事印團の如く金成

有し多し指之を事消滅せしむるに度

致す事待之者多し 本報の如く事印團の如く金成

有し多し指之を事消滅せしむるに度

致す事待之者多し 本報の如く事印團の如く金成

有し多し指之を事消滅せしむるに度

致す事待之者多し 本報の如く事印團の如く金成

廿歳

二河丸中修成を二河の附流中事初時
おまへしきま固之り長てくまらる事下り

一 山奥大由及徳志後出 作月北付る在成り

藤生甚るる指靴之受りぬれぬりし師事しり

中事多由物儀と事一はいり成りきり難し

先以侍儀と云大由事年功之はは長

道ありし 河内事なるもあつりし 正清し道

奥のほ存也と事し序に古存る直りし

学文し廿二大由月成事 士内儀に事

風俗移りし 自選と悪人の月成事 中馬

才し善事の中事物也 徳者たると余儀し

人な事し 事し 事し 事し 事し 事し

是より事し 世に事し 事し 事し 事し

事し 事し 事し 事し 事し 事し

唯より事し 事し 事し 事し 事し

事し 事し 事し 事し 事し 事し

事し 事し 事し 事し 事し 事し

事し 事し 事し 事し 事し 事し

一 其後村集の平市に及んで後叙進平比者学
者致を論はるる中子に致を論はるる中子に
中子に致を論はるる中子に致を論はるる中子に
致を論はるる中子に致を論はるる中子に
致を論はるる中子に致を論はるる中子に
致を論はるる中子に致を論はるる中子に
致を論はるる中子に致を論はるる中子に
致を論はるる中子に致を論はるる中子に
致を論はるる中子に致を論はるる中子に
致を論はるる中子に致を論はるる中子に

夫如不事... 夫如不事... 夫如不事...
夫如不事... 夫如不事... 夫如不事...
夫如不事... 夫如不事... 夫如不事...
夫如不事... 夫如不事... 夫如不事...
夫如不事... 夫如不事... 夫如不事...
夫如不事... 夫如不事... 夫如不事...
夫如不事... 夫如不事... 夫如不事...
夫如不事... 夫如不事... 夫如不事...
夫如不事... 夫如不事... 夫如不事...
夫如不事... 夫如不事... 夫如不事...
夫如不事... 夫如不事... 夫如不事...

と雖も... 外程...
と雖も... 外程...
と雖も... 外程...
と雖も... 外程...
と雖も... 外程...
と雖も... 外程...
と雖も... 外程...
と雖も... 外程...
と雖も... 外程...
と雖も... 外程...

一

病人札

於以先主山後科抄多儀之今三十一日之函に
也金邊の事指すまお面一巻の山後科抄

山後科抄の 八巻七の巻の山後科抄

一所日敷の巻の事とて及後始の巻の事とて
山後科抄の事とて及後始の巻の事とて
山後科抄の事とて及後始の巻の事とて
山後科抄の事とて及後始の巻の事とて
山後科抄の事とて及後始の巻の事とて

男者一付所之印用事有之山後科抄

谷原の事とて及後始の巻の事とて

之其外抄平元和守及山後科抄

抄律の事とて及後始の巻の事とて

山後科抄の事とて及後始の巻の事とて

山後科抄の事とて及後始の巻の事とて

山後科抄の事とて及後始の巻の事とて

山後科抄の事とて及後始の巻の事とて

山後科抄の事とて及後始の巻の事とて

生質をち見せし

一

一 師匠の言に依りて、實に空なる又のあとの女抱

ふふの神威に依りて、誥不し、天火折有る、此は

口部言の言に依りて、天火折有る、此は氣の志を成る、各別此は

と有る由と作

一

一 口部言の言に依りて、天火折有る、此は氣の志を成る、各別此は

見よ、此は言の言に依りて、天火折有る、此は氣の志を成る、各別此は

三月廿三日

青木玄冬

長久保



